

当期は幅広く改善を示した中小企業の景況

平成24年7月17日

全国商工会連合会

全国商工会連合会（会長：石澤義文）は17日、平成24年4月－6月期中小企業景況調査（8,000企業対象、6月1日時点調査実施）の結果をとりまとめた。

平成24年4月－6月期の中小企業景況調査によると、全産業ベースのD I（景気動向指数・前年同期比）は売上額がマイナス22.6（前期比9.1ポイント上昇）となった。採算（経常利益）はマイナス29.7（同7.3ポイント上昇）、資金繰りはマイナス20.1（同7.2ポイント上昇）だった。中小企業の景況は当期大きく改善し、主要3D Iは平成8～9年以来15～16年ぶりの高い水準へ上昇した。

製造業、建設業、小売業、サービス業といった業種別でも主要3D Iはそれぞれ前期水準を上回った。改善幅が大きかったのはサービス業で、売上(収入)額D Iが前期比14.1ポイント上昇、採算（経常利益）D Iは同10.0ポイント上昇、資金繰りD Iは同8.5ポイント上昇と、前期からの改善幅は、4業種で最大となった。サービス業は、6業種に細分化されるが、そのすべての業種で主要3D Iがそろって改善した。とりわけ、「飲食店（一般・遊興）」と「運送業」は3D Iが2ケタ上昇した。建設業は、2期ぶりに主要3D Iがそろって上昇した。地域別に見ると、「東北」「近畿」「九州」で主要3D Iが改善した。とりわけ「東北」では完成工事（請負工事）D Iの水準がプラス17.4と飛びぬけて高くなったのをはじめ、資金繰りD Iの水準もプラスに転じるなど、D Iの水準は地域別では一番高く、復興需要が大きく寄与していることをうかがわせる。製造業でも当期は幅広い業種で景況が改善した。主要3D Iがそろって上昇したのは、17業種中12業種と7割を超えた。そのうち「印刷・同関連業」「プラスチック製品製造業」「輸送用機械器具製造業」「精密機械器具製造業」の4業種は3D Iが2ケタ改善を示した。一方、3D Iがそろって悪化した業種はなかった。小売業でも景況は改善した。ただ、売り上げは前年より減っている、と半分以上が回答していることには変わりなく、また、売り上げが前年より増加したとする回答の割合は1割台での推移となっている。依然として小売業の売り上げ環境は厳しい状況が続いている。

当期、中小企業の景況感は一時的に上向いたものの、消費マインドの本格的な回復にはいたらず、円高や海外経済の下振れリスクも依然として解消されていない。また、例年4月－6月期は年度の始めということもあり、景況が良く出る傾向も見られる。景況改善に持続性があるのかどうか、景況の動向はしばらく注視が必要だ。

（注）D I（景気動向指数）は各調査項目について、各調査項目について増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。 連絡先 企業環境整備課 堀内 TEL 03-6268-0085